

米国日本通運株式会社は2022年1月より、
社名を**NXアメリカ株式会社**へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカ ワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)

URL: <http://www.nittsu.com/hikkoshi>



新年度に際し、管理運営委員会では小野龍生副委員長が退任し、新たに村田敬志さんが副委員長に就任しました。運営委員を離れるにあたり、小野前副委員長にこの1年間の経験を振り返っていただくとともに、世界各地で生活する中での日本語学習との向き合い方についてもうかがいました。

ワシントン日本語学校がつなぐ未来への希望 前副委員長 小野龍生

長い海外生活の中、家庭での日本語習得の大変さに直面

私は外務省に所属し、これまでアメリカ合衆国、フランス共和国、ロシア連邦、中央アフリカ共和国、アンゴラ共和国、パキスタン・イスラム共和国にある日本大使館で勤務してきました。現地の方々との交流やそれぞれの国の文化に触れ、視野を広げる上で大変良い経験をさせていただいたと思っています。

2009年に日本を離れてから過去13年間、海外での生活が続いています。アンゴラには2歳にもならない長女を伴って赴任。妻が日本で長男を出産したのち、長女と生後2ヶ月未満の長男を連れた妻とフランスで



ロシアのエルミタージュ美術館にて



ナミビアのナミブ砂漠にて

合流し、その2年後には次男がフランスで生まれました。家族を連れて文化や言葉の違う国で生活する中で、いつかは帰国しなければいけないという思いがあり、子供たちの教育は常に悩みの種で試行錯誤の連続でした。現地に溶け込むことを優先し、これまで日本人学校や日本語補習校に通わせる機会がなく、日本語の読み書きは家庭学習が肝心要。何とか日本語に興味を持ってもらえるよう寝る前に読み聞かせをしたり、絵本・歴史マンガ・図鑑・国語の問題集・ネットで探した参考書など、あらゆる教材を活用したりと工夫を重ねました。また、子供たちがいつ帰国しても戸惑わないように、日本に一時帰国した際には公立の学校に体験入学をさせるなど、日本語や日本の教育、文化を少しでも経験してもらうようにしていました。

ワシントン日本語学校での貴重な経験

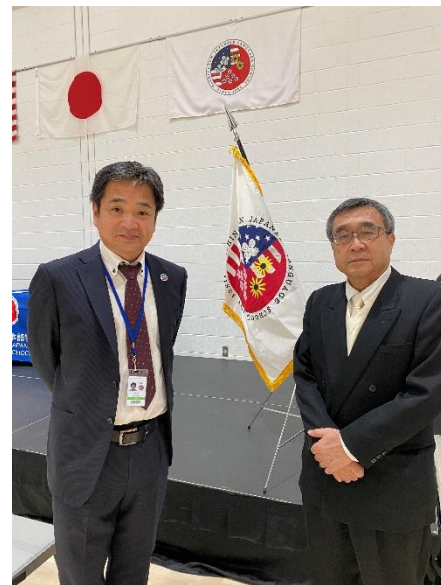
2019年に在米日本大使館勤務が決まり、同年4月から子供たちはワシントン日本語学校へ入学しました。ここでの勤務を最後に帰国になるかもしれないという思いがあったため、日本語での集団生活に慣れ、帰国して日本の学校に早く馴染めるよう入学することを決めました。入学当初は子供たちにとって初めての国語や社会の授業で、戸惑うところもあったようです。しかし、日本語による授業、共働学習、運動会や様々な文化行事を通じて少しずつ学校にも慣れていき、充実した学校生活を送っていると感じています。世界各地で生活し、広い視野を持つように育ててきた子供たちが、日本の学校教育環境での体験を通して日本の価値観や文化に立ち返ったことは、今後日米の架け橋となり未来を開拓して行く上での素地となったと確信しています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、現地校はもとより日本語学校でもオンライン授業となりました。子供たちが学校で教育を受ける機会を失うことへの危機感が募る中、オンライン授業へスムーズに移行することができたのは、本校の基本理念である「みんなで支え、みんなで頑張（る）った」結果であると実感しています。運営委員会、学校関係者や先生方、保護者の家庭でのサポートなど、皆様のご努力に感謝しております。

副委員長としての役割

2021 年 4 月、前任者から運営委員会副委員長というバトンを渡されました。当初は学校組織への理解も不十分で不安も多々ありましたが、運営委員の皆様のご協力があり、微力ながらも最後まで務めることができました。コロナ禍での管理運営委員会は、月 1 回オンラインで行われていました。通常午後 6 時から始まり 9 時半には終わるのですが、重要な議題では様々な意見があるため、議論が白熱すれば 10 時半過ぎまで終わらなかったこともあります。議事進行を担う立場として、中々思うように進められなかったなあと反省する点はいくつもありません。しかし今にして思えば、運営委員の活発な議論は、日本語学校の運営には必要不可欠であったと考えています。

昨年 9 月にオンライン授業から対面授業に戻ることができたのも、運営委員会や学校関係者の主役たる生徒への思い、また、保護者の皆様のご理解とご協力の賜物だと思います。昨年度末には対面での卒園式・卒業式のお手伝いをさせていただきました。生徒の晴れ舞台に立ちあえるのは一生に一度あるかないかのことであり、大変良かったと思っています。今後も運営委員会、事務局を含めた学校関係者が様々な課題に取り組み、生徒にとって有意義だと思える場を提供してけるものと確信しています。



神戸校長と卒業式にて

「保護者立学校」としての在り方

数代前的大江耕太郎元副委員長が、退任される際に以下の内容を寄稿しています。ぜひ皆様にも共有したいので、改めてご紹介させていただきます。

ワシントン日本語学校は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度：保護者や地域住民の方々が知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させる仕組み）のように、学校に意見を言うだけに留まらず、保護者代表に権限と責任がある点で、保護者の関わり方は格段に深いものとなっています。（中略）各種の当番も含めて、ワシントン日本語学校は、保護者の皆様の協力が無ければ、運営が成り立ちません。日本の教育委員会のような組織に頼ることができない代わりに、保護者みんなの意見を出し、役割を担うことで成り立っている「保護者立学校」と言っても過言ではありません。（出典：[みらい通信 2020 年 8 月号「みんなでささえる WJLS」](#)）

日本語学校が取り組むべき課題はこれからも常にあると思いますが、保護者が中心となって学校運営を担う上で何より重要なのは、保護者のご理解とご協力を得ながら、運営委員、校長先生や教頭先生、事務局及び先生方が、一丸となって一つ一つ課題に取り組んでいくことです。どんな時代でも生徒にとって、学校生活が楽しいと思えるような魅力あるワシントン日本語学校の歴史を今後 50 年、100 年と刻んでいって欲しいと思います。



最後に、運営委員会副委員長として過ごした 1 年間は短いながらも中身が濃く、一生の宝物となりました。本当にありがとうございました。ワシントン日本語学校の益々の繁栄を心よりお祈りします。

新副委員長からの挨拶

よろしく
お願いします



村田敬志副委員長

4月より副委員長を務めさせていただくことになりました村田です。今年度は中1、小3、幼稚部で子供たちがお世話になります。我が家は2020年のコロナ禍、ロックダウンの直前に日本から渡米し、当時新小5年の長男と、新小1年の長女も入学式のないまま、オンラインで日本語学校の授業が始まりました。画面越しの現地校では言葉もわからず友達もいないという窮屈な環境下でしたが、日本語学校は、子供たちの大きな支えでした。終日での登校再開もとても楽しみにしています。

刻々と変わる状況の中、子供たちが安全に学習できる環境を整えてくださった皆様に大変感謝しております。私も微力ながら努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



委員長からの報告

ワシントン日本語学校の新年度が桜に彩られる中で始まりました。終日対面授業の再開で子供たちの笑顔を見られたことが何よりです。この2年間で変わらないものもあれば、SR校の改修で校内のカフェテリアが無くなり、お昼は教室でお弁当を食べるなど日本の学校らしくなった変化も。このまま社会状況が安定することを願うとともに、保護者・教職員の皆様のこれまでの学校運営へのご理解・ご協力に対して改めて感謝申し上げます。

さて始業日4月9日には、月例管理運営委員会も2年ぶりに対面での開催となりました。2022年度学校予算案の協議、オンライン授業活用に関するアンケート結果の報告、16日の入学式、30日の特別総会に向けた準備確認等が行われました。

ワシントン日本語学校では年に2回、春と秋に総会を開催しております。30日の特別総会は昨年引き続きオンライン開催となり、2022年度予算提案及び授業料提案に関して本校会員である保護者の皆様に審議していただきます。総会は各ご家庭のご意見を管理運営委員会に直接伝えることができる機会でもあります。保護者の皆様のご参加・ご意見をお待ちしております！

委員長：	渡辺政志
副委員長：	村田敬志
総務部：	辻川扶紀（部長）・ジャコブソン彩子・瀬尾学・竹村聡子
財務部：	グリフィン尚美（部長）・牛嶋 崇
教育人事部：	ミトリック理香（部長）・青木里来・大島由美子・善治聡人・マッキソック美穂
広報部：	小寺友美（部長）・河野真弓
学年代表：	松下桂子（低学年代表）・バーラット和子（中学年代表）・片田順子（高学年代表）